

Neurodiversity & Inclusion Forum



NEURO DIVERSITY
& INCLUSION FORUM

ニューロダイバーシティ & インクルージョンフォーラム

日経BP

2025年度協賛 ご提案書

ニューロダイバーシティ & インクルージョンフォーラムとは

少子高齢化が進む日本では、就労人口の維持や企業の競争力強化のために、ダイバーシティ経営の推進がますます重要になっています。これまで、ビジネスの現場では女性や外国人、シニアなど多様な人材の活躍を推進する取り組みが進んできました。

近年では、個人の「脳の多様性」を活かすことに注目が集まっています。従来のビジネスでは業務の効率化を目指して画一的な仕事ぶりが重視されてきましたが、今後は一人ひとりの違いを尊重し、個人差をうまく組み合わせることで成果を最大化する方向に変化しています。このような多様性が高いチームからは、イノベーションが生まれやすい傾向が示されています。

そのため、ニューロダイバーシティ(脳の多様性)に配慮し、支援を行うことが企業戦略として注目されています。本フォーラムでは、従業員のニューロダイバーシティを活かし、企業の競争力を高める取り組みやその具体的な考え方、行動指針を検討し、発信していきます。

ニューロダイバーシティ & インクルージョンフォーラムの組成

フォーラムのビジョン

「ニューロダイバーシティ」理解の浸透、社会実装活動の展開

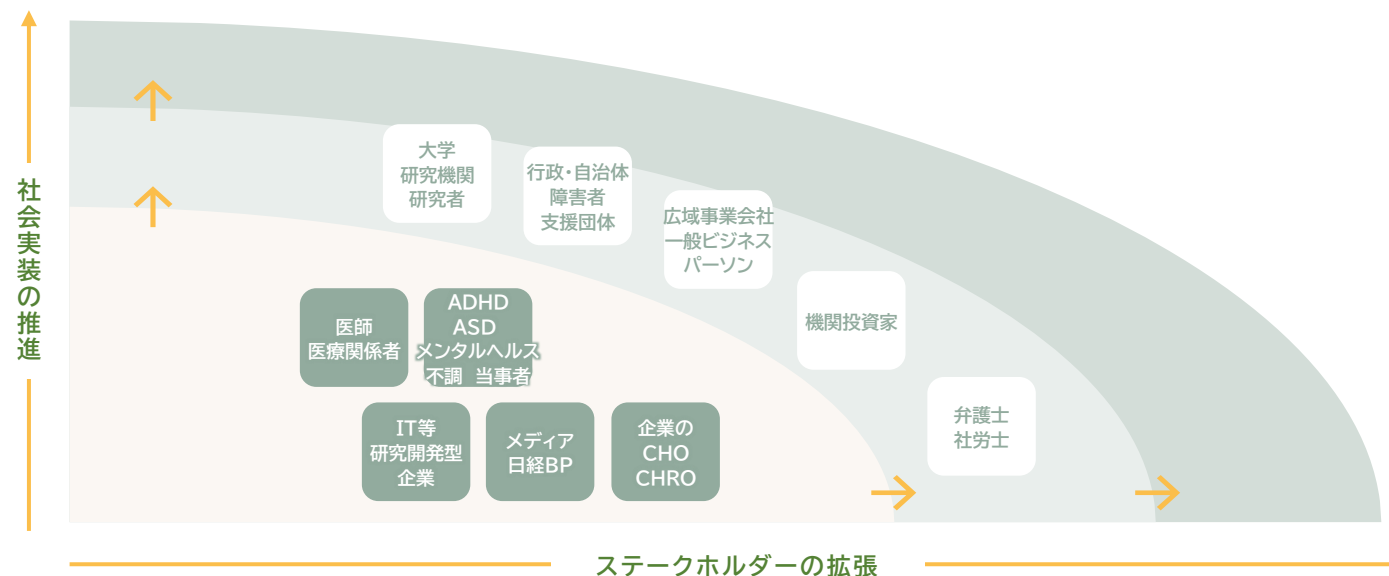
ニューロダイバーシティをDE&Iに加えるために必要な理解、導入法、
加えて導入時の悩み相談ができる横のつながりを展開し、社会実装活動を支援する。

目指す姿

ニューロダイバーシティ & インクルージョンフォーラム

【目的】

「ニューロダイバーシティを人的資本経営やウェルビーイング経営と接続させ、社会実装を実現する



2025年フォーラムの活動内容（予定）

発足2年目となる2025年は「企業経営層、ビジネスパーソンに対する認知・理解の拡大」を目標に展開。活動内容も大幅に充実させます。

活動①

オープンセミナー開催（WEB/年1回）

活動②

オンライン勉強会（年6回実施）

活動③

研修動画のデータ提供

活動④

ニュースレターの発行（月1回）

活動⑤

日経ビジネス／特設サイトでのロゴ掲載

活動⑥

フォーラム総会（年2回開催）



2025年フォーラムの活動内容（予定）

活動①

オープンセミナーの開催（オンライン/年1回開催）

ニューロダイバーシティの普及啓発を目的にオープンセミナーを開催します。

セミナーテーマ

ESGの”S”を極める、米国の反DEI施策の読み方（仮）
-世界経済フォーラムからのビデオメッセージ付き-

セミナー概要

- 日時：2025年9月（予定）
- 実施方法：オンライン配信
- 聴講者数：200名規模

日経BPメディアでの広報

- セミナー告知サイトでのロゴ掲載
 - ニューロダイバーシティ&インクルージョンフォーラムサイトにてイベントの採録記事を掲載
- ※下記URLからご確認いただけます。
- <https://special.nikkeibp.co.jp/atclh/TS/24/neuro/>

〔2024年度 キックオフセミナー実績〕



NEURO DIVERSITY
& INCLUSION FORUM
脳の特性と多様性を活かす新たな成長戦略へ

オンライン配信セミナー
5.17 [Fri] 13:00-17:00 参加費無料



▼講演詳細は下記よりご確認いただけます。
・[日経ビジネス電子版/キックオフセミナーレビュー記事](#)
・[講演アーカイブ動画配信サイト](#)



The Valuable 500創設者
キャロライン・ケイシー氏

経済産業省 経済産業政策局
村山 恵子 氏



開催日時	2024年5月17日(金)13:00～17:00
主 催	日経BP 総合研究所
媒体協力	日経メディカル、日経ビジネス、Human Capital Online
後 援	厚生労働省、内閣府
特別協力	日本財団
協 力	感覚過敏研究所、日本発達障害ネットワーク、日本成人期発達障害臨床医学会、日本うつ病リワーク協会、筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局、横浜国立大学D&I教育実践センター

2025年フォーラムの活動内容（予定）

活動②

オンライン勉強会（年6回開催）

採用や企業内での課題など、各回ごとにテーマを設定し、オンライン勉強会を通じて具体的な推進につながるノウハウを共有します。

- 開催時期 年間6回開催
- 開催方式 オンライン（1～1.5時間程度）／1社5名までご参加可能

■ 想定テーマ

採用担当者向け勉強会

- ・自分自身のアンコンシャスバイアスに気付き、社業に本当に貢献する人材を見抜くコツ

就学の場との連結

- ・大学との連携、共同キャリアセミナー（共同インターンシップに向けて）

職場のニューロダイバーシティ 課題解決検討会 その1

- ・社員への合理的配慮、どこまでが義務、どこからが「わがまま」？

職場のニューロダイバーシティ 課題解決検討会 その2

- ・診断ありきではなく困りごとベースの対応を

職場のニューロダイバーシティ 課題解決検討会 その3

- ・訴訟の現状を知り反面教師として社内に活かす

職場のニューロダイバーシティ 課題解決検討会 その4

- ・社員から信頼される会社になる！
業務は整理・分解、人は丸ごと受け止める

※テーマは変更となる可能性がございます。

活動③

研修動画のデータ提供

日経BPの有するネットワークをフル活用し、医療系学会、精神疾患関連の患者家族会など、多方面の意見を集約し、産業保健の訴訟の現状や国際的な動向を踏まえてニューロダイバーシティの基礎を学ぶ研修動画を作成。
一般社団法人ニューロダイバーシティ協会協力のもと、慶応義塾大学教授でニューロダイバーシティプロジェクトを主導する石戸奈々子氏の監修で提供します。

研修動画の主な内容

- ・ニューロダイバーシティの考え方
- ・ニューロマイノリティ(神経学的少数派)の存在に気付く
- ・包摂を阻む差別・偏見、アンコンシャスバイアスに気付く
- ・なぜニューロインクルーシブな職場が推奨されるのか
- ・ニューロインクルーシブな職場の作り方

納品方法:データ納品

提供時期:2025年8月予定

監修:石戸奈々子(慶応義塾大学大学院メディアデザイン科教授)

協力:一般社団法人ニューロダイバーシティ協会

※オプションとして、御社のニーズに合わせたカスタム研修の実施も可能です。

活動④

ニュースレターの発行（月1回）

フォーラムの活動やニューロダイバーシティの最新動向をまとめたニュースレター（PDF）を月1回お届けします。



NEURO DIVERSITY & INCLUSION FORUM

プレ創刊！
ND&I フォーラム月報 2024 年 11 月号

フォーラムの事業の一般として、月報をお届けすることになりました。神経学的な少数派に対する理解を深めていただきたいという思いから、今回は精神疾患の診断のある当事者の声にフォーカスします。



コンボ代表理事の宇田川健氏

精神疾患（精神障がい）をもつ人たちが主体的に生きていくことができる社会づくりを目指す、NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ代表理事で、統合失調感情障害の当事者でもある宇田川健氏と、双極症Ⅱ方当事者で「双極はたらくラボ」編集長の松浦秀俊氏へのインタビューの一部を抜粋して掲載します（聞き手：日経 BP 総合研究所／小板橋律子）。

「当事者が主体的に生きていく社会を目指す」というメッセージを出して活動を続けてきたということは、逆に、精神疾患があると主体的に生きにくいわけですね。

宇田川：残念ながら、今でもそうですね。精神疾患を有する場合、症状が悪化しないようにと、購物に触るように扱われます。例えば、「無理なくいいよ」というように、このように言われ続けると、なんだか何かのベールに包まれているような感覚に陥ります。何か新しいことをチャレンジしたいと思っても、「無理して再発したら大変」と周囲に言われ続けるわけです。そうすると、チャレンジしてはいけないと思ひ込んでしまいます。そして最終的に、何

ニューロダイバーシティ&インクルージョン・フォーラム 2024 年 11 月号



NEURO DIVERSITY & INCLUSION FORUM

のために生きているのか分からなくなるのです。そのため、われわれは、「自分のことは自分で決めるという生き方があっていいんだ。ただし、その責任は自分で取る」とずっと言っています。これは人間であれば当たり前のことなのですが、精神疾患の診断が付くと途端に難しくなるのはおかしいですね。

——障がい者雇用でも同じ傾向ですか。

宇田川：企業に就職しようと思う障、頑張ろうとする気満々で挑むんですよ。しかし、「障がい者枠の人にはできることは非常に限られ、かつ、仕事で無理をさせてはいけない」と思われていると感じます。中には福祉の一貫として仕事を提供していると考えている企業もあり、驚かされます。

福祉系で就労したい場合は、就労継続支援事業 B 型事業所を選べばいいわけです。取って B 型事業所を選ばずに企業に就職しようとする人は、仕事を頑張りたいと決意しているわけです。しかし、いざ職探しをしてみると、ハローワークに出されている障がい者雇用の求人は最低賃金ばかりです。障がい者にできる仕事は限定されると思い込んでいることで、障がい者雇用では職業選択の自由すら保障されていないと感じます。（フォーラムサイトに 2024/10/29 掲載、全文は以下）



★★★

◎双極症Ⅱ型当事者で「双極はたらくラボ」編集長の松浦秀俊氏に聞く

目指せ！双極症の人が自分らしく働ける社会

松浦秀俊氏（以下、松浦）：双極症とは、誰にでもある気分の波が一時的なものではなく、長期間にわたって上ったり（躁・軽躁状態）、落ち込んだり（うつ状態）を繰り返す病気です。決してまれな病気ではなく、日本での統計では、発症率は 100 人に 1 人弱で、発症しやすいのは 10 歳代後半から 20 歳代といわれています。うつ病と診断された人が実は双極症だったという割合は 10 人に 1〜2 人程度です。

——双極症のうつ状態に「休め」ではよくない場合もあるそうですね。

松浦：双極症のうつ状態は、特定の思考にとらわれがちになるという特徴があります。そのため、特にうつになり始めには行動を活性化する、すなわちいろいろ考えずに動くことで、かえって安定するといわれています。心理療法の一つに、気持ちが軽くなったり楽しくなったりする活動をすることで気分を改善させる「行動活性化療

ニューロダイバーシティ&インクルージョン・フォーラム 2024 年 11 月号



NEURO DIVERSITY & INCLUSION FORUM

法」というのがあるくらいですから。

「うつなら休め」というのが一般的にはまだ信じられているかもしれませんが、同じうつという症状でも、その原因によっては、逆に働いた方がいい場合もあることは知っておいてほしいですし、周囲にそのことを説明しておくことも大事ではないかと思います。（フォーラムサイトに 2024/11/11 掲載、全文は以下）



★★★

◎Human Capital Online 連載

人事が知っておきたい「ニューロダイバーシティ」

柳モデルを TOPIX 採用全銘柄に適用して分かったこと

柳モデルの提唱者として有名な早稲田大学大学院会計研究科客員教授の柳良平氏。日興アセットマネジメントと共同で、東証株価指数（TOPIX）採用全銘柄に柳モデルを適用した研究の結果を論文発表しました。のべ 3 万 5758 企業・年を対象とした大規模な解析は、ニューロダイバーシティ推進を後押しするものでした。（Human Capital Online に 2024/10/08 掲載、全文は以下）



★★★

【その他の関連記事】

◎Human Capital Online 新連載

とんがった個性も生かし切る組織づくり

日立ハイテクが進める「ニューロダイバーシティ推進プロジェクト」

Kaie の大野順平氏による新連載が始まりました。日本の求人は、一般雇用が精神障害者保健福祉手帳（以下、福祉手帳）を持つことを開示した障がい者雇用という二択のみでした。そのような中、日立ハイテクは、特性への合理的配慮は事前に盛り合わせた上で提供する（その際、福祉手帳の有無は問わない）という、「ニューロダイバーシティ推進プロジェクト」を開始。その詳細を紹介します。（Human Capital Online に

ニューロダイバーシティ&インクルージョン・フォーラム 2024 年 11 月号

活動⑤

日経ビジネス／特設サイトでのロゴ掲載

日経BPが発行するメディアやフォーラムの公式サイトを活用して、フォーラム活動の情報発信を行います。

1) 「日経ビジネス」に会員企業様のロゴ入り広告を掲載(月1回)

日経ビジネス



2) 特設サイトでの活動内容の発信

- ・セミナー告知、研究会の開催報告
- ・上記活動のアーカイブ配信
- ・プレスリリース・イベント、レポート記事等の掲載

本フォーラム公式ホームページは下記URLからご確認いただけます。

■ <https://special.nikkeibp.co.jp/atclh/TS/24/neuro/>





活動⑥

ニューロダイバーシティ総会（年2回開催）

総会ではリアルな場で、パートナー会員・賛助会員が一同に集い、フォーラム活動の進捗や情報共有、活動の成果などを発表します。

- 開催時期 2025年 4月～2026年 3月 年間 2回開催
- 開催方式 リアル（2～3時間程度、前半勉強会、後半進捗共有）
- 会 場 都内会議室など、懇親会も開催
- 参加者
 - ・パートナー協賛社、賛助会員協賛社
 - ・医療福祉関係者、当事者会、行政官、政治家など

■ 議題（予定）

- ①フォーラム活動の進捗状況の報告 & 情報共有
- ②フォーラム参加企業のリアル交流の場
- ③オブザーバー（企業、関連団体）によるネットワークづくり
- ④総研レポート・提言書のとりまとめ、発表

*画像はイメージです

フォーラム協賛企業一覧(2024年12月現在)

パートナー協賛



賛助協賛



パートナー協賛

500万円(税別)

「ニューロダイバーシティ」について貴社の取り組みを社会全体へ広く情報発信、見込み顧客の獲得から認知度向上、貴社のマーケティング活動を支援する協賛プランです。

1. 社内浸透・情報収集／ネットワーキング形成

- ニューロダイバーシティ勉強会への参加（年6回/オンライン）
- 研修動画のデータ提供
- ニューロダイバーシティニュースレターのご提供（月1回発行予定）
- ニューロダイバーシティ総会への参加（年2回/リアル）

2. 社外発信

- 「日経ビジネス」に貴社インタビュー掲載（2ページ/タイアップ記事広告）
- 日経BPとの共同プロジェクトの実施
- ご希望の場合：オープンセミナー事前登録者のリード提供（年1回）
- 「日経ビジネス」に会員企業一覧ロゴ掲載（毎月1回・計12回）
- ニューロダイバーシティ&インクルージョンフォーラム発行書籍に会員企業名一覧掲載
- 年1回開催されるオンラインセミナーの事前告知・採録記事内に会員企業一覧ロゴ掲載

協賛会員

50万円(税別)

「ニューロダイバーシティ」についての学びやお取組みの加速を考えられている企業さま向けに、セミナーや総会、勉強会の参加権をご提供するプランです。

1. 社内浸透・情報収集／ネットワーキング形成

- ニューロダイバーシティ勉強会への参加（年6回/オンライン）
- 研修動画のデータ提供
- ニューロダイバーシティニュースレターのご提供(月1回発行予定)
- ニューロダイバーシティ総会への参加（年2回/リアル）

2. 社外発信

- 「日経ビジネス」に会員企業一覧ロゴ掲載（毎月1回・計12回）
- ニューロダイバーシティ&インクルージョンフォーラム発行書籍に会員企業名一覧掲載
- 年1回開催されるオンラインセミナーの事前告知・採録記事内に会員企業一覧ロゴ掲載



お問い合わせ

日経BP
ソリューションビジネス企画部
sbk@nikkeibp.co.jp